学校番号	1302

令和８年度　数学科

教科	数学	科目	（学）数学発展演習	単位数	２単位	年次	３年次
使用教科書	なし						
副教材等	なし						

1　担当者からのメッセージ（学習方法等）

２年生「数学Ⅰ」「数学A」と３年生「数学総合演習」で学んだ事柄からさらに深い内容を扱います。方程式や関数、三角比の復習から発展まで幅広く学び、社会に出て活用できる数学的思考力・計算力を伸ばします。欠席や遅刻なく授業に出ていれば難しい内容ではありませんので、みなさんの前向きな取り組みを期待します。

2　学習の到達目標

【知識及び技能】
・基礎的な四則演算や分数・小数・割合などの計算ができ、計算規則を理解した上で自分なりに活用できるようにする。
・さまざまな文字式の計算方法や方程式の概念を理解し、式の変形や方程式の解き方を理解できるようにする。
・関数の概念を理解し、関数のグラフを活用できるようにする。
【思考力、判断力、表現力等】
・数学の知識や技術を実生活と関連づけて問題を表現し、分析、解決する力を身につける。
・合理的な考え方を身につけ、これからの生涯における判断力を養う。
【学びに向かう力、人間性等】
・数学の有用性に気づくとともに、解けなかった問題が解ける喜び、理解する楽しさを実感し、学ぶことの大切さや面白さに気づけるようにする。

3　評価の観点及びその趣旨

観点	a:知識・技能	b:思考・判断・表現	c:主体的に学習に取り組む態度
観点の趣旨	基礎的な四則演算、分数、小数、割合などの計算ができている。さらにさまざまな文字式の計算や、方程式を解くことができる。関数の概念を理解し、関数のグラフを活用して種々の問題を解くことができる。	数学の知識や技術について自分なりに考え、工夫できるとともに、実生活と関連づけて問題を表現し、分析、解決することができる。	数学の有用性を認識し、粘り強く学習に取り組むことができる。

上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学年末に５段階の評定にまとめます。学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

4　学習の活動

学期	単元名	学習内容	単元(題材)の評価規準	評価方法		
				知(a)	思(b)	主(c)
1学期	数の計算	数の計算 割合の計算 正負の数の計算	a:基礎的な四則計算ができる。 b:計算方法を自分なりに工夫できる。 c:数学の有用性を認識し、粘り強く学習に取り組むことができる。	定期考査	定期考査 提出物	提出物 観察
	数と式	文字式 式の展開 展開の公式 式の因数分解 因数分解の公式	a:分配法則等を利用して基礎的な文字式の計算ができる。 b:文字式の概念を理解し表現できる。公式を理解し活用できる。 c:数学の有用性を認識し、粘り強く学習に取り組むことができる。	定期考査	定期考査 提出物	提出物 観察
2学期	1次方程式	1次方程式 連立方程式	a:1次方程式や連立1次方程式の解法を理解し、解を求めることができる。 b:方程式の意味を理解し、活用できる。 c:数学の有用性を認識し、粘り強く学習に取り組むことができる。	定期考査	定期考査 提出物	提出物 観察
	1次関数	関数 1次関数のグラフ 1次不等式	a:1次関数の性質やグラフのかき方を理解できる。1次不等式を解くことができる。 b:関数の概念を理解し活用できる。関数のグラフと方程式の関係を理解できる。 c:数学の有用性を認識し、粘り強く学習に取り組むことができる。	定期考査	定期考査 提出物	提出物 観察
	2次方程式	式の因数分解 2次方程式	a:2次方程式の解法を理解し、解を求めることができる。 b:平方根や2次方程式の意味を理解し、適切に表現できる。 c:数学の有用性を認識し、粘り強く学習に取り組むことができる。	定期考査	定期考査 提出物	提出物 観察
3学期	2次関数	2次関数のグラフ 2次不等式	a:2次関数の性質やグラフのかき方を理解できる。2次不等式を解くことができる。 b:関数の概念を理解し活用できる。関数のグラフと方程式の関係を理解できる。 c:数学の有用性を認識し、粘り強く学習に取り組むことができる。	定期考査	定期考査 提出物	提出物 観察
	三角比	三角比 三角比の関係 正弦定理･余弦定理 三角比の拡張	a:三角比の性質や定理を理解できる。 b:三角比を活用して図形の数量を求めることができる。 c:数学の有用性を認識し、粘り強く学習に取り組むことができる。	定期考査	定期考査 提出物	提出物 観察

※　表中の観点について　a:知識・技能　b:思考・判断・表現　c:主体的に学習に取り組む態度